

平成27年度
行田市社会資本総合整備計画
地域まちづくり活動支援事業

まちなみにぎわいワークショップ
報告会

秩父鉄道行田市駅周辺地区

大変恐縮ではございますが…あらためまして

ものつくり大学

田尻研究室の紹介

田尻研究室は「都市計画」「まちづくり」

■ 評価

- ▶ 優秀論文賞 (インフラ整備) 自動計測制御学会
- ▶ 奨励賞 (まちづくり) UIT推進会議
- ▶ 地域活性化貢献組合大賞 (まちづくり) 中小企業庁 【連携事業】
- ▶ 日本まちづくり大賞 (まちづくり) 日本都市計画家協会 【連携事業】
- ▶ 優秀賞 (地域防災) UIT推進会議

■ 助成金等の誘致

- ▶ 国土交通省・経済産業省・中小企業庁 (数百万～20億 / 案件)
…調査・整備・活性化・活動等の助成金・資金の誘致実績多数



「実務」を重視した取り組みで、地域の元気に貢献

田尻研究室の「まちづくり」への取り組み

■ まちの活性化を中心に

- ▶ 行田市 まちづくり人材育成を目的に検定制度の構築
- ▶ 行田市 中等教育過程におけるまちづくり教育に関する調査
- ▶ 行田市 乗り合いタクシー実証実験に関する調査
- ▶ 高崎市 移動手段・来訪・まちづくりの意識調査
- ▶ 高崎市 活性化を目指した地域交流に関する意識調査
- ▶ 高崎市 防災力向上を目的に行った意識調査
- ▶ 日暮里 国際化を目指したまちづくりに関する意識調査
- ▶ フィリピン 道路利用の安全性の向上と教育プログラムの提案



まちの活性化を目指したフィールド重視の研究

近年のまちづくり成功スタイル

当事者意識を持ち,主体的に取り組む

住 民

行 政

協働の輪！

大 学

情報提供・施策の実施

研究分析 ファシリテータ役
(取りまとめ)
地域密着のコンサルタント

大学はステキな三角関係の「取りまとめ役」

- 1.行田市のまちづくりとは
- 2.平成27年度WS概要
- 3.市民意識調査・観光調査まとめ
- 4.今後の方針

『まちにぎワークショップ』とは

『行田らしいまち並みとにぎわい創出基本計画』から

- まち並み(景観等のハード面の整備)
- にぎわい(活性化のためのソフト面の仕組みづくり)

について考えるワークショップ

ワークショップ事業のスケジュール(5カ年)

今年度

市民主体組織の必要性を共有

2年目

市民主体組織のあり方の検討・設置

3年目

試験的事業の設定と着手

4年目

試験的事業の運営

5年目

試験的事業の事後評価

最終目標 → 市民が主体となった市民のためのまちづくり

行田に市民主体組織がなぜ必要なのか

■行田市の現状

各団体の活動は活発
個々に活動している

- 個々の力は強い
- 行田市全体での目標・ビジョンが共有されていない

■成功しているまち

市民が中心に活動
まとめる組織がある

- 市民の参加率が高い
- **市民主体組織**



今後の行田市の発展 → **市民主体組織が必要**

1.行田市のまちづくりとは

➤ 2.平成27年度WS概要

3.市民意識調査・観光調査まとめ

4.今後の方針

平成27年度ワークショップで目指すもの

■ 平成28年度に市民主体組織の設置

各回の取組み

- ▶ 第1回 現状認識と課題の共有
 - ▶ 第2回 定住人口・交流人口の確保に向けた検討
 - ▶ 第3回 街並みづくりと住民参画の取組み検討
 - ▶ 第4回 行田市の市民主体組織のスタイルの検討
- ➡「市民主体組織の必要性を共有」
【何を、誰が、どのような方法でするのか】

行田市の現状と主な課題

テーマA 【定住人口】中心市街地に活気がない・若者がいない

テーマB 【交流人口】観光客が少ない・お客が少ない

テーマC 【住民参画】市民のまちづくりへの参画

テーマD 【まち並み】まち並みを改善する必要がある

今年はこの問題について考えることが必要！

第1回のまとめ

行田市の現状の再確認と認識と課題の共有

【議論する上でのポイント】

- まちづくりは市民が主役
- 市民・NPO団体・市民団体が連携できる組織が必要
- 「だれが」、「どのように」と具体的に議論する

第2回意見のまとめ

テーマA 【定住人口】 人口減少を止めるには？

- 育児施設・女性の雇用機会を増やし、
子育て世代の定住を促進
- 屋台村のようなものをつくり、
若者向け店舗を増やし、若者の流出防止

テーマB 【交流人口】 観光客等を増やすには？

- 観光系の団体が協力し、
観光PRや市内の散策ルートを作成
- まちづくり活動を行っている人をまとめ、
市民全体で観光客の誘致に取り組む

第3回意見のまとめ

テーマC 【住民参画】 住民参加を増やすには？

- 若い人や、女性がまちづくりに
参加しやすい場や団体を作る
- 個々での活動が多いため
各団体をまとめるような組織を作る事が重要

テーマD 【まち並み】 まち並みはどうあるべきか？

- 各地域によって方向性が違うので、
まとめる組織や交流の場を作り話し合う
- まちづくりに関する団体を作り
空き店舗などを管理・活用を行う

第4回意見のまとめ

テーマ

行田市の市民主体組織のスタイルと
あり方について

- 既存の自治会や公民館をまとめ新規団体の設立
- 市民から有志を集い、新規のまちづくり会社のような市民活動団体の設立
- 一般市民や行動力のある若者など、年代ごとに幅広く集め、市民の思いを共有できる場

市民主体組織の必要性が共有できた

まちにぎWSのまとめ

行田市の現状

- 若者の流出防止
- **市民全体**で観光客の誘致に取り組む
- 個々での活動が多いため
 各団体をまとめるような組織を作る事が重要
- 各地域によって方向性が違うので、
 まとめる**組織や交流の場**を作り話し合う

団体を集結させ、市民主体組織を設立し、
オール市民で現状を変えていく必要がある

1.行田市のまちづくりとは

2.平成27年度WS概要

➤ 3.市民意識調査・観光調査まとめ

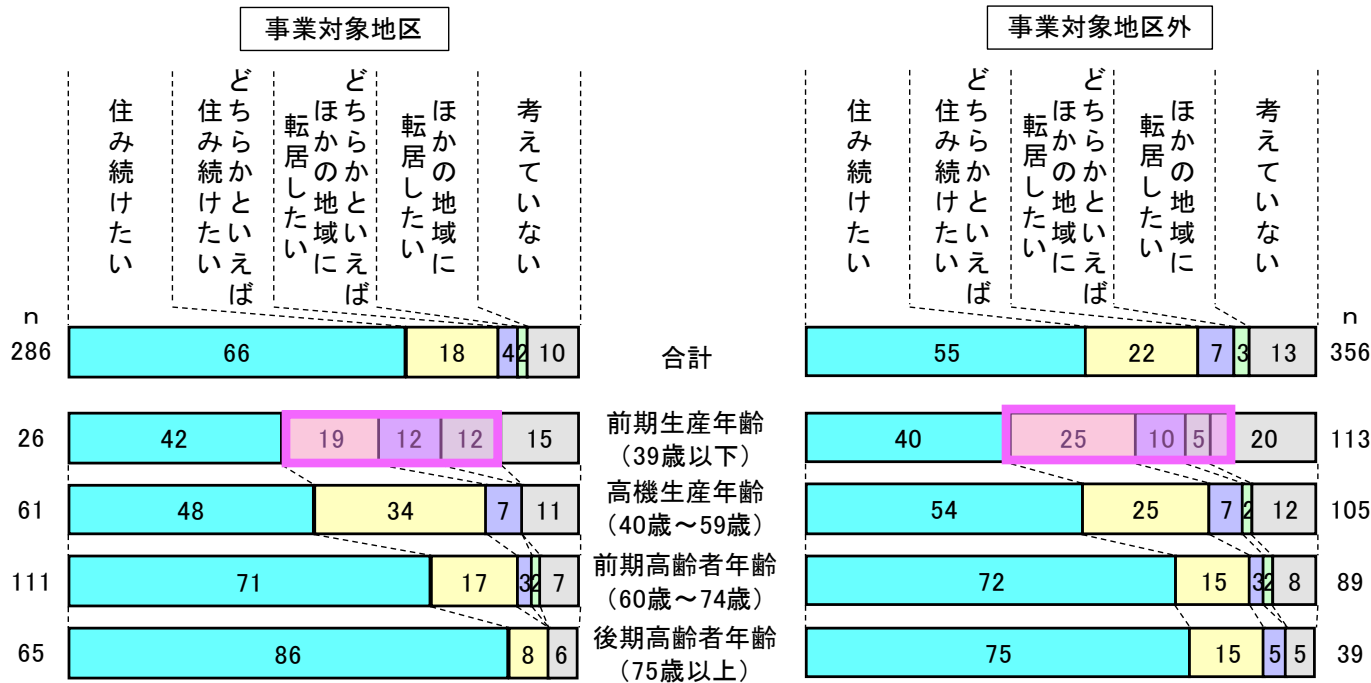
4.今後の方針

行田市市民意識調査の概要

調査対象者	事業対象地区 の市民	事業対象地区外 の市民
調査方法	アンケート方式による調査	
配布 回収方法	ポスティング 郵送回収	郵送配布 郵送回収
回収 配布部数(部)	237/1100	275/1530
回収率(%)	21.5	18.0

テーマA
【定住人口】

調査対象地区の定住意向



前期生産年齢の約4割が何らかの不満を持っている



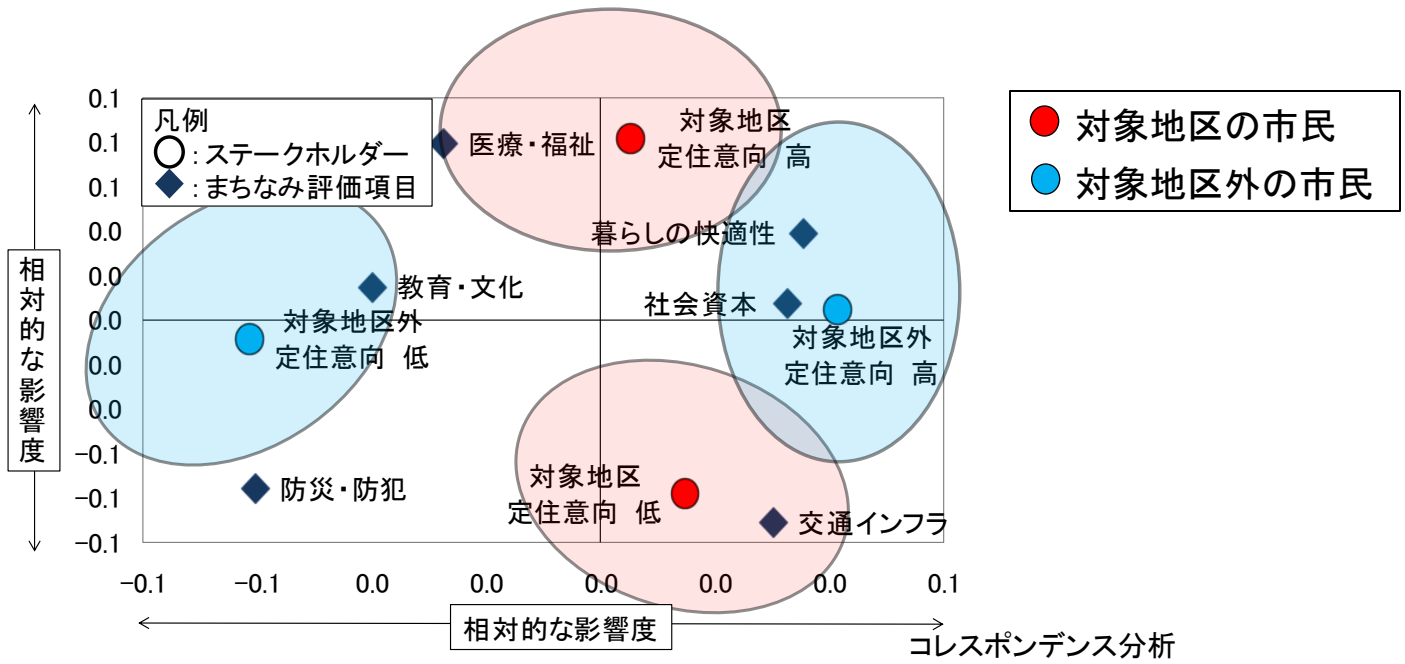
定住意向の上昇



地域活動活発化のきっかけ

テーマD
【まち並み】

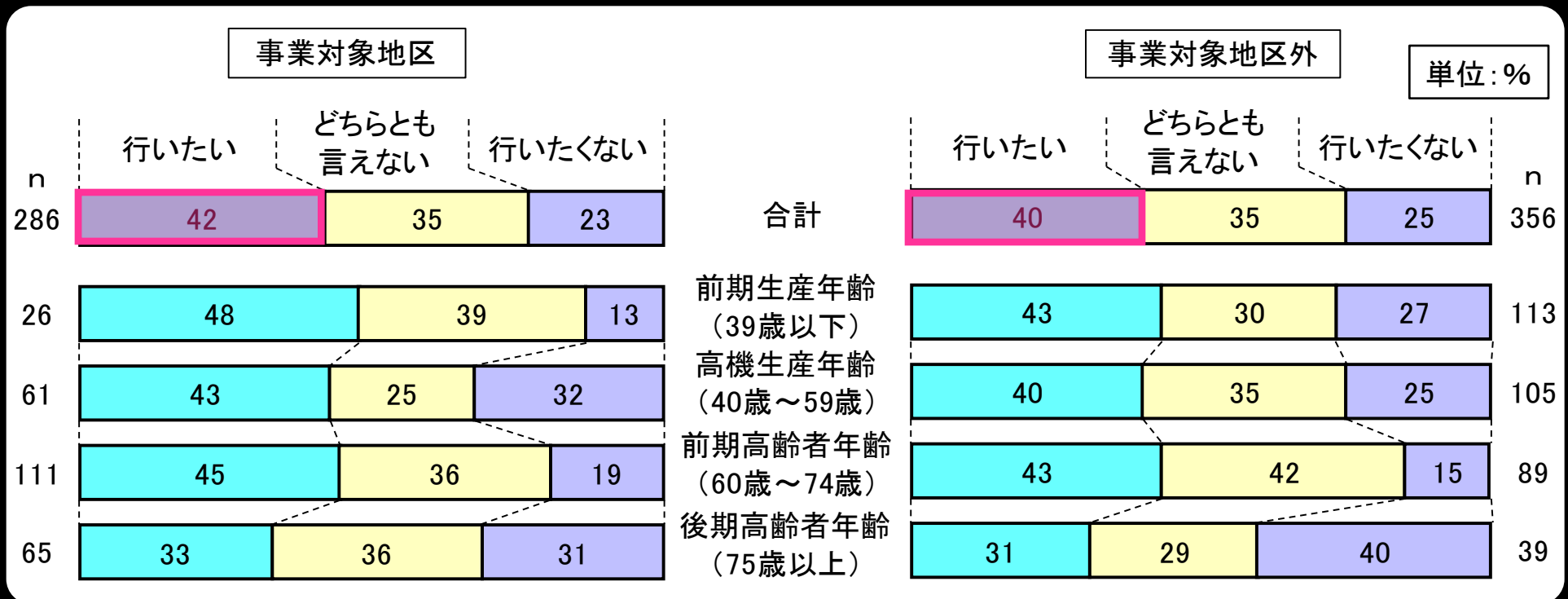
市民のまちなみ評価に伴う改善点



対象地区	定住意向 高	➡	医療・福祉	} 不満に思う箇所 に差異 ↓ 地域に応じた整備の 必要性
	定住意向 低	➡	交通インフラ	
対象地区外	定住意向 高	➡	社会資本	
	定住意向 低	➡	教育文化	

テーマC
【住民参画】

調査対象地区の地域活動意向



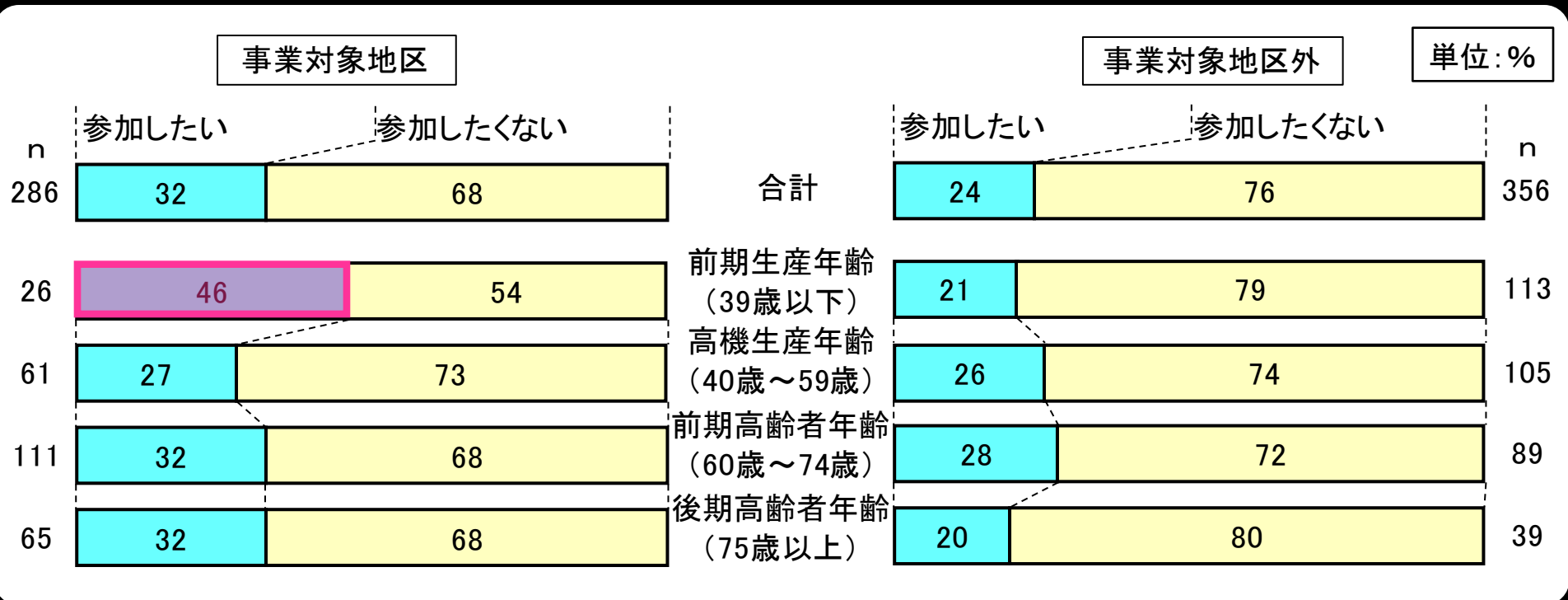
4割の市民がまちづくり活動への参加意識がある



まちづくり活動に参加しやすくなるような仕組みが必要

テーマC
【住民参画】

調査対象地区のWS参加意向



前期生産年齢のWS参加意向が高い



WSに参加を促すような周知が必要

主な自由回答の意見

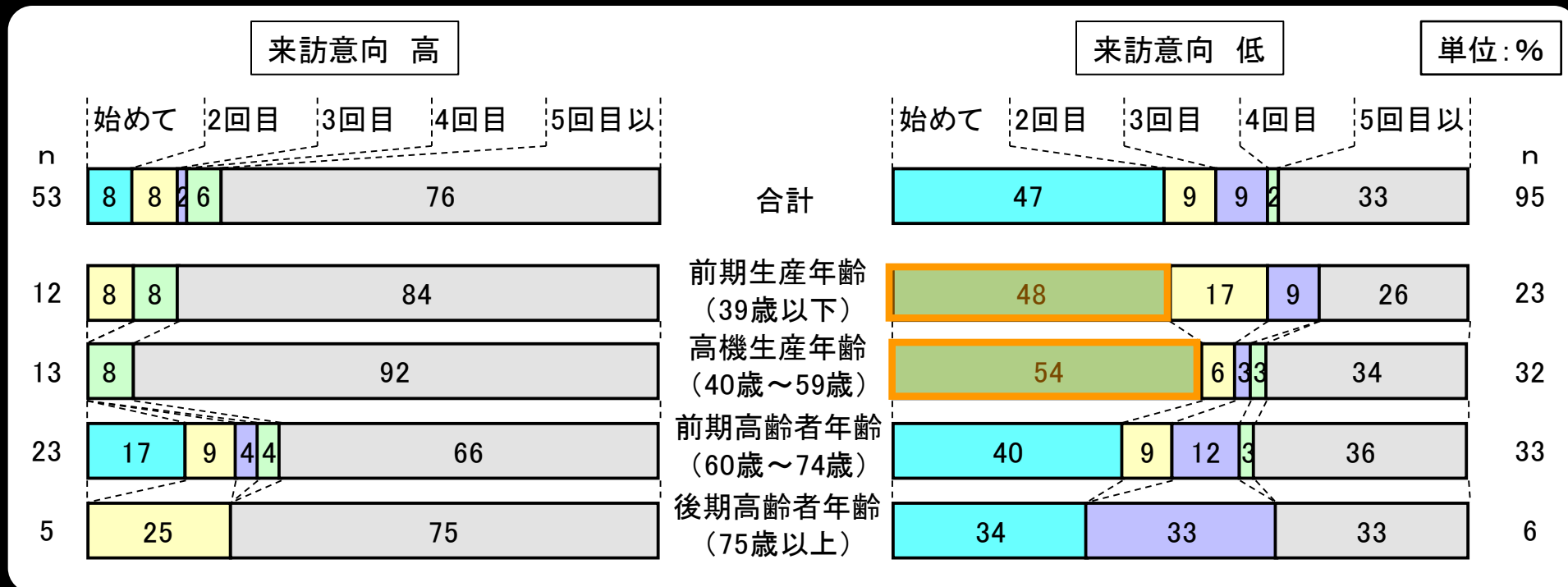
- 川越市のように発展して欲しい
- 最近新しいお祭りやイベントがあり観光客が増えた
- 路上駐車が多く、交通マナーが悪い
- 観光地にお土産屋が少ない
- バスが不便。鴻巣や羽生と連携して欲しい
- ガードレールがなかったりと危険なところが多い
- 企業の誘致、学校の誘致に力を入れて欲しい

観光者意識調査の概要

調査対象者	行田市に来訪した観光客
調査方法	アンケート方式による調査
配布 回収方法	手渡し/直接配布・郵送回収
回収 配布部数(部)	149/270
回収率(%)	55.1

テーマB
【交流人口】

観光客の年齢別来訪回数



来訪意向 低 ➡ 初めて来訪した観光客の再来訪意向が低い

初来訪時の第一印象が重要

テーマB
【交流人口】

居住地別行田市で使った金額

	隣接地区	近接地区	埼玉県内	埼玉県外	単位:%
					n
合計	25	26	21	28	130
1000円未満	31	30	9	30	23
1000円以上 5000円未満	32	21	20	27	75
5000円以上 10000円未満	7	26	37	30	27
10000円以上	20	40	40		5



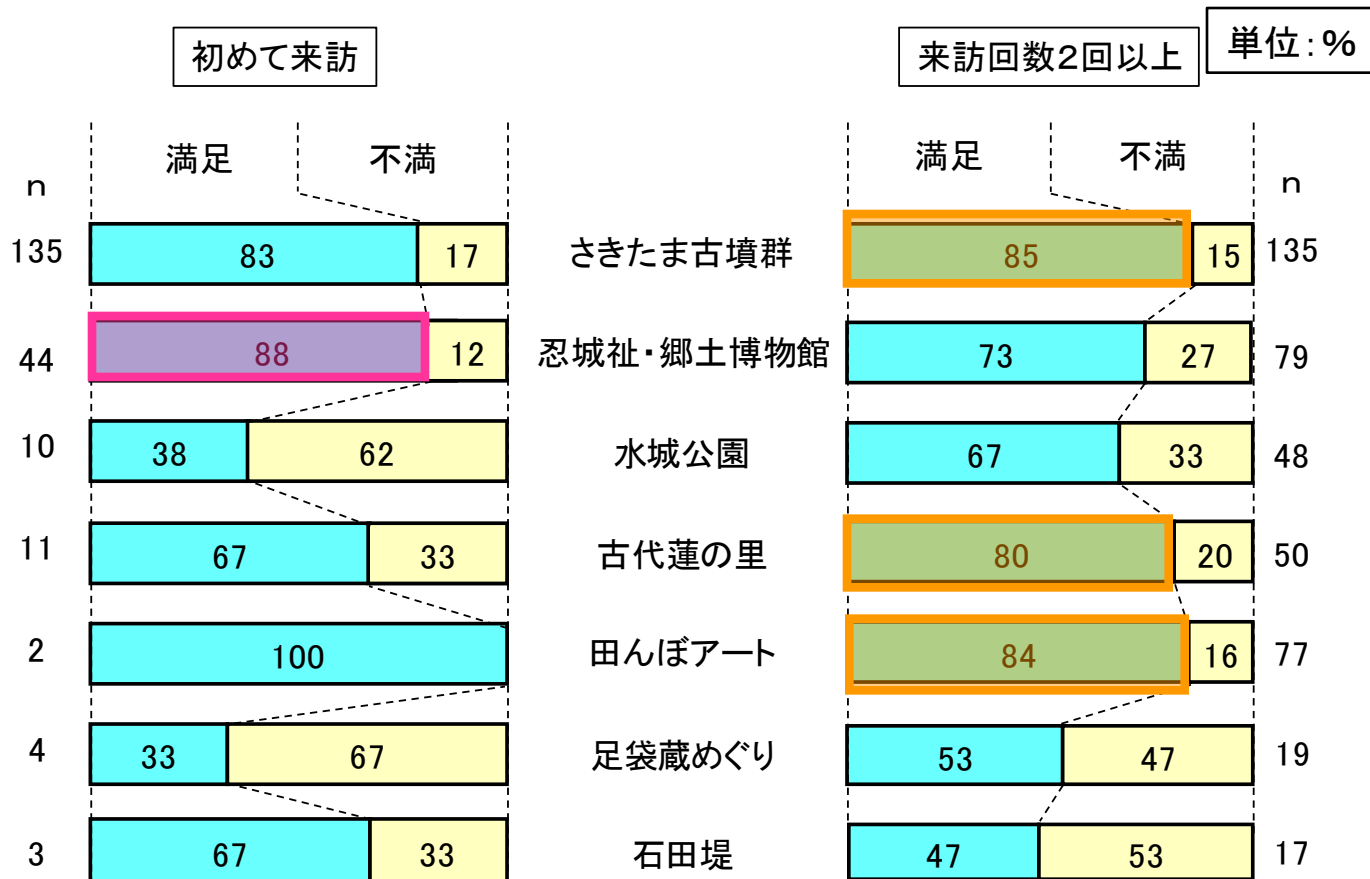
行田市から離れた地域 お金の支出が大きい



広域的な周知の方法を考える必要性あり

テーマB
【交流人口】

観光資源別の満足率



参考：行田市観光ガイド

「さきたま古墳群」、「忍城社・郷土博物館」、「古代蓮の里」
主要観光資源の3地点を重要視する必要がある

主な自由回答の意見

- 「観光無料駐車場」の案内が欲しい
- 観光地の近くにおいしい食事処が欲しい
- おもてなし隊がステキです
- もっと広くアピールするべきだと思います。
- 次回は田んぼアートを見に来たい
- ガードレールがなかったりと危険なところが多い
- バスの方や人がとても優しくかった

調査のまとめ

テーマA 【定住人口】

- 39歳以下の市民の定住意向が低い傾向がある
- 全体の6割の市民が住み続けたいと答えている

テーマB 【交流人口】

- 初来訪時の**第一印象**が継続的な観光につながる
- 観光地の中で「**さきたま古墳群**」、「**古代蓮の里**」
「**忍城社・郷土博物館**」、の満足率が高い

調査のまとめ

テーマC 【住民参画】

- 39歳以下の市民のWS参加意向が高い
- まちづくり活動に参加しやすくなるような仕組みが必要

テーマD 【まち並み】

- 地域によって不満を感じる箇所に差異が生じている
- 地域の特性に応じた整備の必要性がある

1.行田市のまちづくりとは

2.平成27年度WS概要

3.市民意識調査・観光調査まとめ

➤ 4.今後の方針

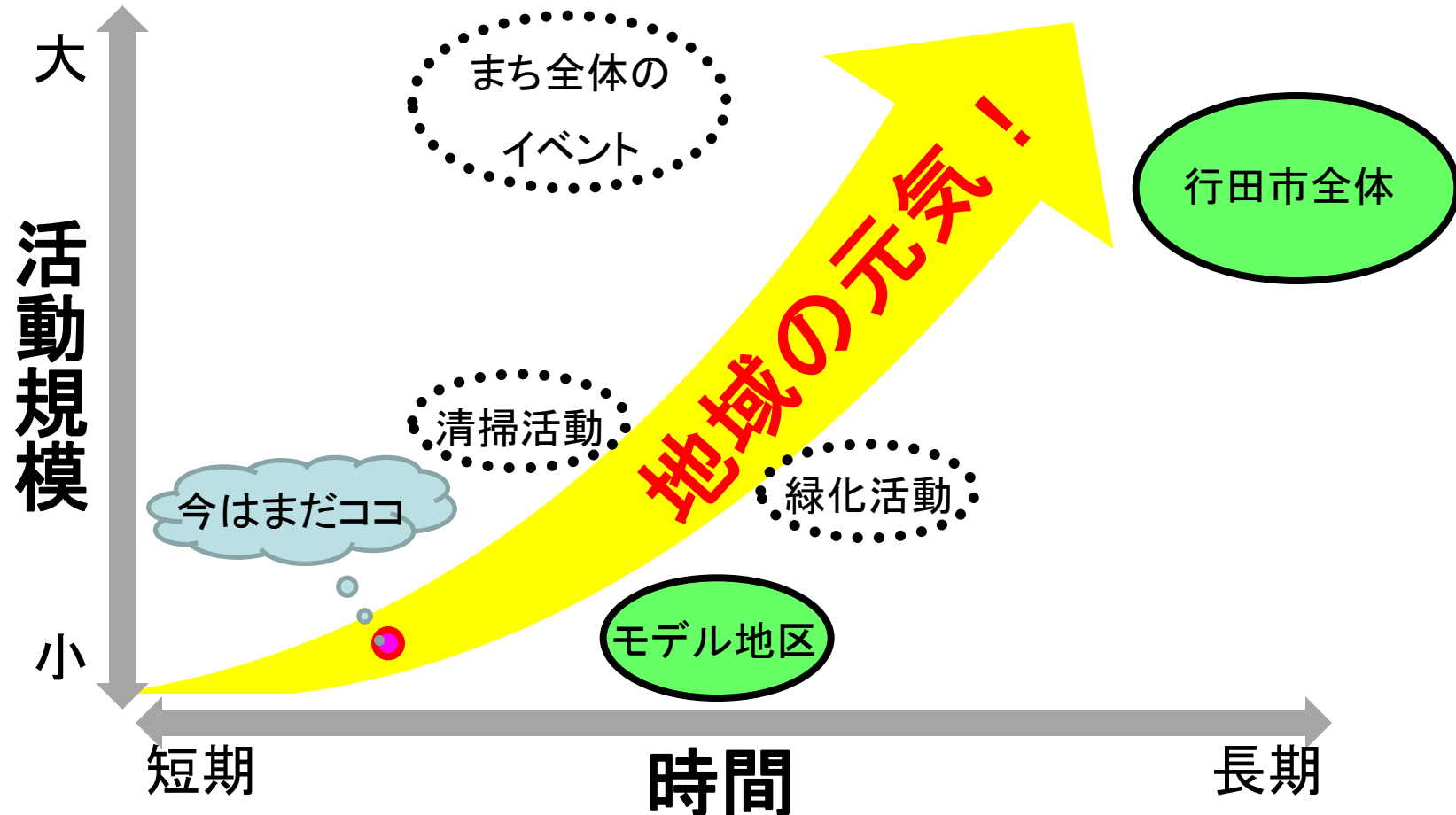
平成28年度の方針

平成28年度から実際に市民主体組織を設置



具体的な活動内容と市民の選定を行う

地域の元気は私たち市民から！



市民主体の協議会のような組織が成長するにつれて
まち全体が元気になっていきます！

元気に伸びる「まち」の特徴

言いつぱなし →あとは行政(ほかの誰か)



…ではなく

環境のせいにして →誰も救ってはくれない

知恵と工夫 →自分たちで出来ることから

まず実績 →助成金・補助金は実績主義

自分もみんなも →地域全体がレベルアップ

みんなが当事者

みなさんのチカラで行田を元気に！

**ワークショップは来年度も継続して
実施します！**